

学会彙報（昭和三十九年度）

○教授移動（昭和三十九年四月一日）

山口益教授が停年で退職されたが、同時に名誉教授として、大学院及び文学部の演習を引き続き担当されることになった。また安井広済助教授は教授に、白土わか助手は専任講師にそれぞれ昇格され、研究室には四年半のインド留学から帰朝された長崎法潤氏を助手に迎えた。

○公開講演会（四月三十日）

講演「心の無について」

名誉教授 山口 益博士

出席者 舟橋主任教授以下諸先生、学生等二百余名。

四十数年間、ひたすら佛教学の研究に心血を注いで来られた山口先生の含蓄豊かな講演に、学外からも参集した満堂の聴衆はひとしく深い感銘を受けた。

○新入会員歓迎会（四月三十日）

新入会員の紹介、及び先生方と新入会

員との懇談。なお長崎法潤氏の帰国歓迎会をかねて行なう。

出席者 山口、舟橋、山田、横超、安藤 佐々木現、安井、稲葉正、佐々木教、雲井、桜部、白土の諸先生、鍵主、長

崎両助手、ほかに学生約六十名。

○山口名誉教授謝恩会（四月三十日、於白河院）

四十年間、大谷大学で教鞭をとって来られた山口先生の学恩を深謝し、併せて先生の御健康を念じつつ、歓談の一夕を過ごす。

出席者 佛教学関係諸先生、研究室員、及び山口先生の門下生代表数名。

○五月二十三日、二十四日の両日、本学において第十五回日本印度学佛教学会学術大会を挙行、この大会に関する諸準備には佛教学会員が総力をあげてこれに当り、本大会を成功裡に運営することが出来た。

○録音テープを聞く会（六月十日）

大谷学会春季公開講演会（五月二十三

日、於図書館講堂）における東京大学教授中村元博士の講演「浄土教の世界思想的意義」を録音テープによって聞く。その後この講演に関して討論を行なう。

出席者 舟橋主任教授以下三十九名。

○講演会（六月二十四日）

講演「ナーランダ・パーリ研究所の現状報告」 助手 長崎法潤氏

ひきつづきスライドによりインド各地の現況を見、同氏の解説を聞く。

出席者 舟橋主任教授以下四十名。

○研究発表会（十月七日）

研究発表

「賢首大師法藏における真理の一考察」 助手 鍵主良敬氏

「現代インドにおける倫理思想」

教授 佐々木現順博士

出席者 舟橋主任教授以下三十一名。

○研究発表会（十一月二日）

研究発表

「煩惱障所知障と人法二無我」

研究室嘱託 舟橋尚哉氏
「蓮華藏世界と靈山浄土」

教授 安藤俊雄博士

出席者 舟橋主任教授以下三十四名。

○十一月三日「文化の日」に山口名誉教授が文化功労者として顕彰されることになった。これは先生の学問業績から推して当然のこととはいえ、我々会員一同にとっても誠に誇りとする所である。今後もし引き続き先生が御研鑽と後輩育成に当られんことを念願する次第である。

○卒業論文発表会及び予饌会（二月二十九日）

修士課程、文学部の卒業論文の梗概発表を聞く。その後各教授から卒業生への「はなむけ」の言葉を拝聴、引き続き会食しながらなごやかに歓談する。

なお本年度佛教学専攻の卒業生は修士課程六名、文学部十二名である。
出席者 山田教授以下三十八名。

佛教学専攻卒業論文題目

○修士論文

※リポジトリ非公開

○文学部

※リポジトリ非公開

「佛教学セミナー」編集委員会

○十月十五日（水） 於佛教学研究室

第一回編集会議を開き、この学会誌の大綱について協議する。あわせて創刊号の執筆者を決定し、即刻論文等の執筆を依頼することになった。出席者は佛教学関係の諸先生及び研究室要員。

○十一月二十六日（木） 於佛教学研究室

出版に関する諸事項について打合せをする。特に学会員の負担額や創刊号の編集・出版に関する責任役員などを詳細に亘って検討した。

○一月二十日（水） 於佛教学研究室

かねてより公募していた学会誌の題名について協議。その結果大学院博士課程・片野道雄君の応募した「佛教学セミナー」を学会誌の題名にすることに決定した。なお表紙の装釘を雲井教授に依頼した。